

2008年11月7日

会員・関係者 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会
連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)
ホームページ http://www7a.biglobe.ne.jp/~khj_olive/

米大統領に初の黒人大統領が誕生した。(日本時間5日)麻生総理大臣は所信表明演説で「若者に希望を持ってもらわなくては国の土台が揺らぐ」、「困っている若者に自立を促し、手を差し伸べるための、新法を検討する」と述べた。ひきこもり・ニート支援の新法に期待したい。
(2頁参照)

下記の通り11月の月例会を開催いたしますのでご案内申し上げます。

第77回月例会ご案内

- 1) 日 時 11月23日(日・祝)
13:00~13:30 受付
13:30~13:40 理事長から報告・連絡
13:40~15:00 「立上げから現在までの道のり」
小規模作業所 にしき工房
所長 小西 由季子さん
15:15~16:30 ビデオ学習「ひきこもり 1・2」
大人のひきこもり NHK福祉ネットワーク
- 2) 場 所 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室
TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い
- 3) 参加費 1家族 1,000円

【今後の月例会】

- 12月21日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30
一部 講演「格差社会を 楽に生きよう」支援者の立場から
講師 1988年より、ひきこもり若者支援を実践されている 山田孝明氏
(・NPO法人京都オレンジの会理事・情報センターISISネットワーク代表)
- 二部 ひきこもり体験発表と交流会予定
2009年 1月25日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30
2月22日(日) 同 上 同 上

【ポパイの会（若者の集い）】

10月の若者の集いの参加者で会の名前を決めました。ポパイの会にしました。

ポパイの会の入会お知らせのチラシや案内状も、若者たち自身でこれから作っていく予定です。気楽な集いなのでお茶だけに来ていただいても結構です。

また、ボーリング大会、リボンの箱作りなど考えています。一度参加してみませんか！

【居場所活動予定】

11月 2日(日) 運営委員会 (13:30~16:00)

11月 8日(土) 松田先生 個人カウンセリング (9:00~13:00)

11月 2日(日)・15日(土)・23日(日) ポパイの会 (13:30~16:00)

【ポレポレ農園】

農園の若者が一人、二人と四国八十八ヶ所歩き遍路に挑戦を始めたそうです。

若者自身のなかで何かが変化しているのでしょうか。

近く仏生山でも場所を提供いただき、若者達で野菜販売を予定しているそうです。

県内外からも親子で農園の見学に来られたり、農作業の体験をされる若者もいるそうです。

ポレポレ農園を見学したい方、野菜の購入や作業等、わずかな時間でもお手伝いを頂ける方(ボランティア)は松田先生(携帯電話 090-8695-0904)までご連絡下さい。

【おしらせ】

ひきこもり・ニート支援の法律制定へ

職場や学校に馴染めず、長期間、自宅に閉じこもる「ひきこもり」の人達や、仕事に就かず、学校にもいかない、いわゆるニートと呼ばれる若者支援に向けて、政府は、地域の相談態勢の整備等を進めるための新たな法律の制定を目指す方針です。若者への支援をめぐって、麻生総理大臣は、先月の所信表明演説で「若者に希望を持ってもらわなくては国の土台が揺らぐ」として、「困っている若者に自立を促し、手を差し伸べるための、新法を検討する」と述べました。これを受けて、政府は、長期間、自宅に閉じこもる「ひきこもり」の人たちやいわゆるニートと呼ばれる若者など、困難な状況に置かれた若者を支援するための新たな法律の制定を目指す方針です。新たな法律には、こうした若者の支援に当たる地域の拠点づくりや、相談態勢の整備などを進め、若者やその家族が、地域から孤立することがないようなネットワークを作るための施策を盛り込むことにしています。政府は、若者の状況の把握や、若者に関する個人情報の取り扱いなどの課題もあることから、近く、内閣府や厚生労働省、それに、文部科学省など関係省庁による会議を開いたうえで、法律上の具体的な内容の検討を進めることにしています。

(10/14 NHK ニュースオンラインより抜粋)

四国ブロック会議報告(概要)

日時 平成20年10月12日(日) 13:30~16:30

場所 KHJ 高知県「やいる鳥の会」居場所(いの町))

出席者 10名 NPO 法人香川県オリーブの会2名・徳島県「つばめの会」1名
高知県「やいる鳥の会」4名・愛媛県「こまどりの会」3名

議案

「ひきこもり地域支援センター（仮称）（新規事業）」設置について （各県の動きと各県に提示した親の会の要望・意見など）

NPO 法人 KHJ 香川県オリーブの会

去る9月19日（金）障害福祉課課長、副課長、課長補佐と面談 伺ってお話をするなかで、このセンターは相談窓口、関係機関の連携、情報発信の三点に特化したセンターであること。また県に私たちの意見をお伝えする機会を持てたことは良かったと思う。9月24日（水）には会員がどのようなセンターを望んでいるかアンケートの結果報告を三役に説明。障害福祉課課長の返事は、大体方向性がわかりましたということであった。選択肢のひとつにセンターの委託を受けることも出来ないことはないとのことであったが、人材不足で出来ないと思った。

KHJ 徳島県「つばめの会」

徳島は8人で県（健康増進課）を訪問。各県がみんな予算を付けるとは思わない、裕福な県とそうでない県の温度差があると思う。

国が予算を付けるとしても新規事業は難しい状況である。マイナス20%シーリングで前年度の20%引くことなので、委託として金額を減額して出来ないのかお願いしたが、最終的には県は持ち帰って相談しますと言われたが、まず難しいと思う。

KHJ 高知県「やいろ鳥の会」

知事が積極的に生涯学習課と健康福祉部精神福祉課に指示を出して、出来る方策を詰めなさいという指示が出ている。10月3日に県の予算委員会の、ひきこもりについて傍聴に行ったが、基本的にどの課もセンターを設置しませんというニュアンスは全くなかったので、聞いている限りは当然出来るというふうに思った。具体像はまだ高知県の行政は持っていないようだ。来週か再来週に要望書を持って、教育委員会の生涯学習課と健康福祉部に同席いただき、要望書を提出する予定。

KHJ 愛媛県「こまどりの会」

1年半しか経っていないので、纏まって役員が揃って行こうかというような状態でないのが現実。皆さんの話を聞いて、持ち帰り話をしようかと思う。高知がどういう風な取り組みをされているか、話を聞きして、知事が会に出席して下さったのが分かった。うちの段階ではこれからである。

署名活動について

ひきこもり公的支援をお願いしたいというので要望書ができている。そして一応ひきこもり地域支援センターが出来ることになった、そのセンターに対してこういうことを入れて欲しいということが、旅立46号に提言として書かれている。署名活動するのは反対ではないが、本部が統一して作成すること。県への要望はそれぞれ行う。

この要望書が変わっていくものか、生きているものか良く分からないので、奥山代表に聞く必要があると思う。

次期四国ブロック会長選出について

四国各県の持ち回りということで、次期四国ブロック会長に、KHJ 徳島県「つばめの会」高橋浩爾会長を選出。任期は1年。

以上

後日 奥山代表に電話で確認

署名活動については、今は厚労省と協調関係ができてうまくいっているので、署名活動は必要でない。

「全国引きこもり家族会～支援者代表交流会・研修会～広島大会」(第4回全代研広島大会)
平成20年11月29(土)～30日(日)会場：広島県健康福祉センター大研修室

(主催：KHJ 広島県もみじの会 共催：全国引きこもり KHJ 親の会)

・大会テーマ：「引きこもりへの国の総合施策に向けて」

副題：「医療的援助システム、そして福祉への官民協働を」

・「来年度からの施策概要の紹介」厚生労働省社会援護局 総務課長補佐 高倉 恵子

詳細は旅立ち46号をご覧ください。

【前回の月例会より】

講演「ひきこもりの当事者と家族の心理と援助」(概要)

講師 香川大学教育学部准教授・臨床心理士 竹森 元彦氏

ひきこもることの重要性と、ひきこもることの負の循環

ひきこもりという言葉一つでも、どの漢字が使われているか分からない。ひきこもる
退き籠もる・退行する。

不登校の子どもの相談が多い。年間数十万人いるといわれている。

社会、学校、家族の問題などで子ども達がエネルギーを無くしていく。

最近高校の相談も多く高校をやめるといふ相談が倍増になっている。多分、中学時代は持ちこたえられたが、高校時代になって一度考え直さなければいけない、逆にいうと考え直す機会があったことは良かった。

先延ばしされてないという点においては、寧ろ喜ばないといけないと思う。

人間というものは回復していくもの。時間と栄養が必要。ゆったりした時間を持てると回復していく力をもっている。それに任せていけばだんだん回復してくる。

ひきこもりということ自体、ネガティブな言葉である。

ひきこもらないと人間回復できないところもあり、適当なひきこもりが必要である。

ひきこもらずに、ずっと生き続けることは不可能である。

子ども達はひきこもらずにきて、不登校という現象が起きてきている。

安心してひきこもることによって、エネルギーを回復していく。

長期化するひきこもりの子どもは、少しエネルギーが溜まると放出するという繰り返りで、そこからもう一歩外に出ようとした時に、親に叱られるとか、ちょっとしたことで不安定になって、自信も元々ないのでひきこもってしまう。

少しエネルギーが溜まってきたな、頑張ろうと思うと、ちょっとしたことで、ひきこもってしまう。という循環が繰り返されていく。これがひきこもることの負の循環という。それが始まるとずっと続いてしまう。

小学校、中学校、高校へ上がるときに節目があるが、そこから先なかなか節目がないのでお互いにどこで整えたらいいのか良く分からない。

中学校ずっと不登校している子は高校受験に備えて大体整っていく。身体も力も強くなってくるし、エネルギーが出てくる。不登校で相談している子はほぼ100%高校受験する。休んでいたうちに子どもが栄養補給出来た。親も子どもの理解が出来ているので、高校へ入ると躓きながら何とかやっていける。

人生というのは一昔前は、なだらかな坂道を登る形で人生を送っていた。学校の先生になろうとか警察官になろうとか、見える目標が比較的是っきり分かり易かった。近くに居た。今の子ども達は険しい坂道を登っていつている。何回も何回も峠のある坂道を登っていて、銀行がつぶれたり、証券会社が崩壊してしまったり、簡単に首相が変わってしまったりとか、何を目標にしているのか分からない中で生きている。とにかく一生懸命走るのだが、それもうまく行かない。険しい坂道がいくつも人生の中で出てくる。

企業で退職されたり休まれるのは三大疾病でなくて、メンタル不全で三倍くらい休まれる。うつ病とか抑うつ状態とかで会社を休まれる方が多い。企業も効率化ということで、管理を強めてきている。坂道が結構険しい。自殺者も三万人を超えている。真面目で頑張る人こそが追い詰められて自殺をしてしまう。

人間は弱いもので、いろんなものを背負わされている。それでも頑張れと言われるとエネルギーが無くなってしまふ。それでも頑張れといわれると、もう消えてしまいたいと思ひだして精神的に弱いものである。悪い条件が整ってしまうと本当にエネルギーが枯渇してしまうことが十分あり得る状況の中に、苦しい時代を生きていく。とはいえ、ひきこもることでエネルギーが回復するというのも又事実である。リラックスすることによって心の栄養が溜まってきて、活力ができる。凄く大事である。ひきこもるというのは退行する、退くというのは子どもがえりするという意味もある。ひきこもることで安心して自分の生活の中にいるというのはとても大事なことで、一旦ひきこもることによって、少しずつエネルギーが蓄積される。

一方で二つ目のひきこもりは、意欲が出てきたと思うと否定される。誰も否定したくないが、身近な人からそんなんじゃ駄目だとか一言で否定されると、もともと自信がないので折れてしまふ。で又ひきこもる。そして失敗体験として繰り返されていくと不安が増えていつてしまふ。どうせ言われるのであれば、しない方がまし、と不安が先に走るようになって動けない。疲れきってしまう、自責の念とか眠れないとか、うつ状態が発生してエネルギーが放出できない、緊張して疲れているという状況が起こってくる。

不登校する子も最初凄く緊張しているが、安心した場所だとわかるとだんだんと安心した表情になってくる。少しずつエネルギーが溜まってくる。最初は緊張していて、学校へ行かないのはいいのか悪いのかと自問自答したり、自分の人生が終わったのではないかというような、それがだんだんと昼夜逆転に。なぜ昼夜逆転かという、昼間起きていると、友達が学校へ行っているの、ものすごく緊張する。だから昼間寝て夜起きる。これは自然な当たり前の防衛。昼夜逆転を認めずにこれはいけないんだと言ってしまふと、どんどん消耗していつてしまふ。当事者、子どもというのはうつのなかにいるので、周囲の大人たち、家族が今の状況をどのように分かるかにかかってくる。

親の不安がでてくる、子ども以上に親の不安はどのように整理していくのかポイントになってくる。一つはこういう会にくるのは大事と思う。カウンセリングで整理されるかという、それより寧ろこういう仲間が居たんだ、これをセルフヘルプグループという。お互いに助け合えるので専門家がいろんなことを言うより意外と効果があったりする。

同じ立場の人達がいるということが、とても安心する。自分だけかと思ってしまうと、異常だからこれは絶対まずいと焦りを覚えるので、焦ってよくなるものでもない。でも焦らないといけない。親の不安は親で整理しなければいけないが、子どもは子どもで不安を抱えているので、どういう風に周囲の大人が整理して接していったらいいのか、非常に大きな問題だと思う。

親はどうすれば子どもに上手く接することができるかという点、子どもの心理、子どもの状況を、親の方が少しでも読めるようになってくると、子どもというのは分かってくれているなというように思うし、何か変化が出てきても親なりに読めるようになってくる。親も楽になる。とんでもない理解をしているとそれが分からない。すごいストレスだけど、子どもがどんな世界で生きているのかということ、ある程度分かる。これがひとつ大事になってくると思う。昼夜逆転も、昼間緊張するから、夜起きているのを理解ができれば見守れる。分からないとこれはおかしいとそんなこと絶対駄目だといわれると、ま逆の対応になってしまう。子どもの内面の世界、気持ちを上手くつかむことが出来ると随分楽になる。同じ状況でも状況が分かるか分からないかで、全然違ってくる。

近すぎて不登校がよく見えないので、少し距離をとってみる、放っておく。極力子どもの成長の邪魔をしないというのは、親として心がけとかならないといけないと思う。放っておくことは見捨てることとは異なって、今のまま成長しているのをそっとしておく、そういうのは視点で凄く大事。何かあれば関わっていき、どうにか変えてやろう、もっと治療してやろう、という発想になってくるので、親子関係で治療はありえない。治療が出来る状況というのは、病気とかが発症してそれに対して、精神科の医師がお薬を出すのは治療かも知れないが、親子の関係とか、カウンセラーとクライアントの関係なかで、心を治療してやろうというものは自体ありえない。心は育つものであって、治療して、鋏で、ナイフで切ったり取り除いて悪いところを出してやろうというのを、私たちは持ちがちである。それを持った途端、子どものほうは距離感を示すようになっていってしまう。大変な状況の中を挫折した中を生きている。非常に苦しい状況の中に生きているんだと、捉えていく親の視点というのが大事になってくると思う。ところがなかなか難しいので親の方が混乱し不安になるし、非常にストレスを抱える、だからできるだけそこをうまく解消する、整理する場所を得て欲しいと思う。

母親だけが子どもに関わるというのは、限界がある。できるならご夫婦で相談しながら関わりたい、一人の人間の知恵というのは限られているし、関係が強ければ強いほど呑み込まれてしまうので、二方向、三方向から一人の子どもを見ていくというふうに拡げていくというのが良い。ご夫婦で共有する、子どもの何を見るのか、出来てないことを見るのではない、子どもの心理状態を見る、出来てないことをいくら見ていって挙げていっても、本人が出来るのでなくて、親が与えて出来るようになるか、本人がやりたいことを育てなければいけないので、出来ないことを出来るようにしようというのではなく、出来ないで苦しんでいる気持ちが大変なんだ、という気持ちが分かるころから入ると、子どもとの関係は全く変わってくると思う。出来ないところを責めだすとお互い日々苦しくなる。家庭が居場所ではなくなってしまう。子どもにとって居場所ではないし、親にとっても苦しい場所になってしまう。

小学校で不登校になった子は理由がある。真面目に一生懸命頑張った子が燃え尽きてなってしまうことが多い。中学校もそうである。努力した先になってしまうというのが現状である。企業でうつ等発症している人も、どういう人がなりやすいかというと、頑張り屋さん、真面目で責任感が強くて人の話をよく聞ける人がなる。頑張った先にみんなエネルギーを使いきり、

うつという状況になってしまう。寧ろ頑張ってきたところを先ず認めたり、労うところから入らないと繋がらない、繋がらないと相手のことが分からない、手が出ない、どんな状態になっているのか気持ちが正確に分からないと、違う手を打つと、大変ずれていることになる。手が打てない。

まずよく経過を踏まえて、子どもが何故こうなったのか、よく分かった上で、どの辺の立ち位置で関わっていくのか、立ち位置があまり代わると子どもの方も本当に自分のことを考えてやっているのか、若しくは親のほうも分からなくなってしまうので、立ち位置という言葉が難しいのだが、ここの立ち位置で少し腹をすえていこう、少し決めることによって決まれば随分安定してくる。ところがいろんな情報が氾濫しているので、どれを信じていいのか、Aさんの話を信じていいのか、Bさんの話を信じていいのか代わりまわっていると、やはり、自分の立ち位置がかわると、子どもも対応が変わってきたと思うので、私はいろんなカウンセラーとかドクターのところに行ったほうが良いと思っている。よくいろんな話を聞いて、最終決断は、ご夫婦と子どもさんです。いろんな話を聴くべきだと思う。いろんなところでいろんな話を聴いて、勉強していくというか、経験していくということが、すごく大事と思う。そこで全くいやな先生もいるし、それを取り入れながら、自分達の立ち位置を作っていくというか、長い間考えて立ち位置というのは間違っていない、立ち位置についてどうですかねと誰かに聴いて、良いのではないと言われると自信も出来てくるので、ドクターショッピング、カウンセラーショッピングしたほうが良いと思う。いろいろ廻って、セカンドオピニオン廻ってどうにもならないのは、どうにもならないので、どうにかなるものを出来る立ち位置を、ちゃんと現実的に探すのが大事と思う。小さな変化をどう見つけていくのが大事で、大きな変化、治療してやろうという上から見た見方というのは、途端に子どもが萎縮してしまうので、本人もしんどい。かなり苦勞している状況ということが大前提として前に向いていくことが良いかなと思う。

親子の関係は近いので難しい、だから第三者とか親の会等で他の人の話を聞くなどして、どこか冷静にどこか熱くクールさと両方いるが、立ち位置を定めていくと親のほうも安定してくる。それと子どもも少し安定してくる。小さな変化が生まれてくるので、大きな視点で見すぎて、他の子と同じようにならなければいけないと思っていると、小さな変化を見逃してしまう。理想としては、他の子と同じようにかも知れないけれど、今の現状から少し変化してきたことを喜べないと親のほうも、しんどくなるので、そういう見方、立ち位置を出来るだけ繋げていくことが親の安定にも繋がる。延いては子どもの安定にも繋がってくる。

心の仕組み エネルギーの消費と供給について

何故そういう風にひきこもってしまうのかというのは、心がエネルギーを消費することと、供給することで成り立っている。エネルギーの 消費<供給 元気になる、消費>供給 動けなくなる、休まないと駄目、もっと頑張るぞとかもっと身体にむち打って頑張ろう、こんなことで負けるものかとそれが過ぎると、全部使い切ると動けなくなると、食事が食べられない、睡眠がとれない、人と会うのが億劫だ、そのようなサインが出てくる。私たちもあまり仕事ばかりしていると眠れなくなってしまう。睡眠に出やすい。食事が食べられない、睡眠がとれないとかは生きる力の根本なので、擦り切れていってしまう。心というのは、上手く供給しながら消費する。消費量が多いと疲れ切ってしまう、うつ状態になってしまう。

悲しいことに心は見えないし、その人がどんなストレス抱えているのか見えない、分からない。非常に厄介で非常に主観的なもの。親からすると何のストレスも無いのに子どもにとっては凄くストレスだったりすることもある。その人の能力とか状況によって、同じものでも全く違うように感じたりするものである。どんなストレスがあるのか、どのように感じているのか、一番いいのは本人に聞いて教えてもらうこと。どんなことが困っているのか、本人から聞ければ、それを手がかりに、理解していくことが出来る。

何に困っているのか本人の言葉から拾い上げて推測していく、通じてくるとだんだん分かってくる。大体想像がつくようになってくると親のストレスも大分軽減されてくる。ところが分からないと、親のほうもパニック、そういうことが日々続くと親も眠れなくなる。

本人の言葉を誠実に聴いてあげることが大事になってくると思う。聴いてくれた エネルギーの供給 聞いてくれなかった エネルギーの消費。

本人の言葉として教えてもらっているというのは大事、一方では対決することも必要になってくる。いろいろ受け入れていくときと、ここは守らないといけないだろというライン。両方持たないといけない。基本的には疲れた人に上から頑張れよと言っても、疲れ切った人に対してはまず理解されることが大事。

うつ病の発症率は一生のうちで女性の場合10%弱くらい、男性は5%くらい発症するだろうといわれているくらい罹りやすい病気、知らないうちに完治している場合も結構ある。子育てのこと、夫婦関係のこと、自分の親の問題とか重なってくると、うつになってくる。誰がなってもおかしくない、病院に来られる何倍もの方が症状を持たれて家で過ごされていると思う。問題はなかなか当事者が言ってくれないということ。病院に行きたがらない。本人達は病気ではないと思っている。治療されるものではない。休息、休憩が最優先。統合失調症の症状をもっている方もいるかも知れない。統合失調症は3~5%位の人が発症するといわれている。文化と関係なく人間が脳を持ってしまったことで発症せざるを得ない、ただ病気だからとか、本人が悪いんだと本人に押し付けるのではなく、病気を持ちながら生きている人として考えていってあげる、

大疾患であるのか精神疾患であるのか分からないが抱えながら生きている人なんだ、病気を抱えながら生きている大変なんだ、というようなウィズの発想が大事、幻聴とか幻覚とか見えるのが統合失調症、それがひどいと入院治療にもっていかないといけない場合もあるので、素人判断せずにこういう症状が出ているが手立ては無いが、一度心療内科に相談されるとよい。

家族の関係性の問題 家族とはどうあるべきか？

安心できる居場所。家族が不安定だと子どもも不安定、親が変わると子どもも変わってくる。家族がどう変ればいいのか分からない。これまでの固定化された役割がずっと続く。これを考え直していかなければならない。父親の役割 決断（父親に相談役になってもらう）

母親の役割 食事 やさしさ、役割がないと何していいか分からない。責任分担して父親中心に責任をもつていただく。受容は大切だが社会的ルールをつくる。時には対決することも必要。年齢相応に相手を尊重する、意欲を持たせる、食欲・金銭欲は生きる力の源である。父親は、基本的には不器用に関わる、愛情は持って関わる、器用に関わる必要は無い、心が大事。

専門家と相談をする、外部の風邪を吹き込む 数ヶ月に一度、話を聞いてもらうだけで現状を受け入れることもできるようになる。変ってなくても立ち位置を確認できる。

専門家の見分け方 家族、本人を理解して、よく話を聴いてくれる。時間がかかっても行列のできるドクターがよい。ドクターショッピング、カウンセラーショッピング、セカンドオピニオンはしたほうがよい。専門家が決めるのではなく、本人と家族が決めること（責任の主体）あくまで専門家は相談相手である。よき相談相手を見極めること。

アスペルガー症候群などの広汎性発達障害について

ひきこもりの背景として、アスペルガー症候群や高機能自閉症であることも多い。

正しい理解が必要 = 固有の外界世界の受け止め方・認知の仕方がある。

コミュニケーションができなくて、ひきこもりが継続してしまっていると言われるが、正しい理解が必要。診断するかしないかは別としても本人の性格として、特別な捉え方、世界観があり、場の雰囲気を読めない、例えが分からない、感情のニュアンスが分からない、固執性、自分なりの理屈に拘る、儀式的、相手が何を感じているのか伝えなければ読めない特徴があって、人とのやりとりが上手く出来ない、言葉で言われても意味が分からない、つまり失敗してしまう。硬くなってしまう、緊張してしまう、また指摘されてしまう、不適応をおこしていく。

アスペルガーをもっているお父さん達はたくさんいる。もっていても仕事はできている。IT関係の人達の中にも特徴を持った人達はあると思う。否定的に見るのではなく、こういう特徴がある子どもとして対応していかないと、能力が限界なのに攻められても本人は傷つくばかりである。能力に応じて援助方法が必要。状況が理解できないのに叱られることの“しんどさ、苦しさ”（心理的苦痛感）がある。間違った関わり方をしているのに認識できていない。本人が理解さえできると二度としない。悪気無く同じことを繰り返している、怒られ続けるとパニックになってしまう。友達関係においては自己主張が強くなってしまっ、自分はこう思う、人はどう思っているのか分かり難いので、いじめの対象になったりすることもある。人嫌いではなく、人との親密性を求めているという印象が私は強い。人を見る目はある。自分と敵対する人の近くに寄らないで守ってくれる人が判断できる。これはすごい能力だなと思う。

受け止めてもらう機会が少なかった人達は自分ではここまでしか分からないが、そこから先が分からないのでカウンセリングなどで繋いでいく。ある種人間関係が上手くできると、成長してくるなという印象がかなりある。診断を受けることが必要、どう理解していくのか、認知してもらう必要がある。

親の会・講演会などに参加して勉強すること。

専門家に相談すること。診断をしてもすぐに治る対応策はない。正しい理解が何より大切。

性質的には親の気質を引き継いでいる場合が多い。

成功している人もいるので、モデルとしてどうお手伝いしてもらうかが大事と考えている。援助していかなければならない。うつとか統合失調症とか発達障害とか新しい概念が出てきたので、分かり易くなってきた。子どもの特徴がこういうのに照らし合わせながら、理解していくことが出来るようになってきた。

援助・理解の視点

子ども自身の気持ち、状況の理解が大切。内面を正確にみる。能力的な面、性格的な面、何に苦しんでいるのか、当人の視点にたって気持ちを理解できているのかどうか、一番苦しんでいるところを分かってやれば、援助の手がかりになってくるのである。大人として接してい

るのかどうか、大人として尊重する。

当事者自身の自己責任の大切さ 自分らしさや<欲>を認めて、<欲>を育てること。お小遣い。意欲があって初めて外界に向かえるもの。小さなよい変化は見逃さない。一人の人間の生き方を、親が支配できるものではない。暖かく突き放す。

第3者の援助を受けること 継続して相談すること、カウンセリングを受けている間に変化が起きる。カウンセリングにおいて、カウンセラーからよいアドバイスを得るのではなく、クライアント自身が答えを見つけて自己決断することが大切である。

家族の中の変化を引き起こすこと 専門家に継続的に相談をすること。子どもの心理を日常生活の中で描けること。親の苦悩をどこかで吐けること。親の苦悩を分かり合えるような場所があること=親の会。

受け入れることと、向かい合うこと(対決) 夫婦の同じ姿勢で向かい合うこと。夫婦バラバラだと子どもはきかない。「限界設定」をどう設けるのか：納得できる分かり易い理由、例えば35歳という限界を設ける、社会資源を使える有効な年齢。親の退職時とかにも。家庭という居場所から、外部の居場所への移行をケース・バイ・ケースで工夫、粘り強く行う。

“父親の参加”は重要 = 男性原理、父性原理など社会性の発達に影響を及ぼす。

母性は包み込む機能・・・一方で“鬼母神”の側面もある。

父性は切断し社会化する機能、社会と向かい合うのは父性原理である。

ケースにもよるが、微々たる変化でよくなっているのが分かり難いと思うが、1年2年続くと大きな変化に繋がって行く。矛たれないこと。たちどころクリアにしておく。いろんな情報に翻弄され易い。当事者であるが故にその情報に右往左往してしまうことがある。それを安心して相談して聴ける場所があるとよい。

『質疑応答』

Q：“立ち位置について”あまり意識してなかったが、家族と相談してみる必要があるのか？

A：Kさんの場合現状のままでよいと思う。あまり意識しなくて良いが、少し意識したほうが良いと思う。安心できる。(苦しさを苦しさとして話し合える場が必要。限界設定をして一つ一つの目標を本人と話し合うことも有効。出口を探す。)

Q：アパートで一人暮らし、若者自立塾卒業、最近、うつ状態に陥っている。いい医者を選び方を教えて欲しい？

A：いい心療内科、カウンセラーにまずかかって相談してみるとよい。

Q：母子家庭、スーパーマーケットで働いている。外からの風を入れようと努力している。

A：いいことだ、母親も外へ出て働くとイキイキしてくる。(外で働いていると、子どもと話が出来難くなることもある。)

Q：当事者の責任は認めたいが、親としてなかなか待てない。欲を出させるため小遣いを与えるのを止めてみた。家庭での役割分担(家事)もさせている。

A：小遣いは、ある程度それなりの額を与えても良いと思う。ルールを作って、できれば本人の求めによって交渉した上で、与えるようにすればよい。年相応の小遣いがなければ、擦り切れてしまう恐れがある。

以上